

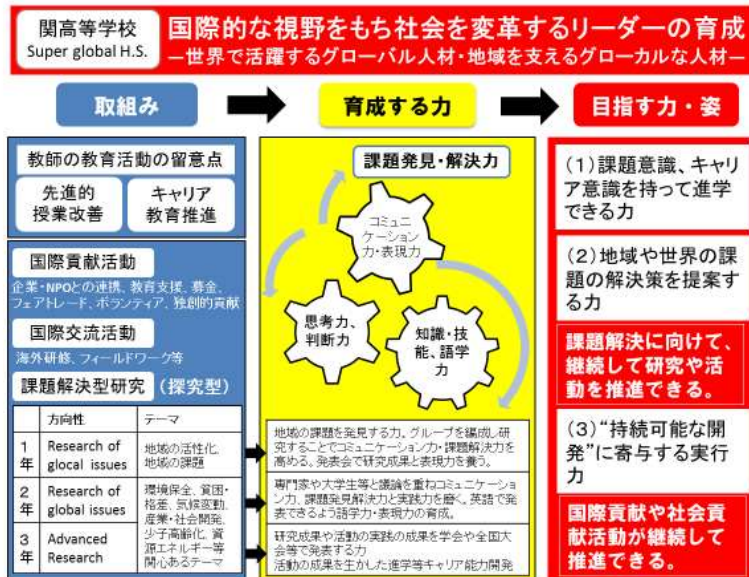


◇ 海陽学園主催の海陽会議（模擬国連合同練習会）に参加しました！

日時：平成30年1月21日（日）9：00～16：30
参加者：中高生40名（海陽学園・名古屋高校・直江津中等学校・高田・岐阜・関）
主催：海陽学園中等学校 **会場：**名古屋高等学校

議題は「国際移住と開発」。事前に配付された分厚い議題概説書（Background Guide）と担当国に関わる情報を読み込み、担当国の政策を立案。関高の担当国はブラジル（2年2名）とスペイン（1年2名）。総勢40名の生徒が、スピーチと討議を繰り返し、各々の国益と国際協調のバランスを取りながら、決議案作成に向かって進みます。

学んだ知識を活用しながら、初めて出会う相手と交渉を重ね、一定の成果を導き出す。模擬国連は、関高の教育目標（下図）に掲げられた**課題発見・解決力**、すなわち「**知識・技能、語学力**」「**思考力・判断力**」「**コミュニケーション力・表現力**」のすべてを活用する場でもあります。



◇ 当日の様子 朝から夕方まで、スピーチと討議が繰り返されました。



5校40名が参加



ワーキングペーパーの作成



DR(決議案)を時間内にまとめあげます。



アンモデレートコーカスで他国大使と交渉。

◇ 取り組んだ生徒の感想

■ 2回目の模擬国連ということで、前回よりは少しはうまくできるのではないかと、ひょっとしたら会議を中心的に進められるのではないかと、そんな気持ちもありました。確かに前回よりは議場で何が起きているのかは理解できたとし、周囲の会話に置いていかれないようにすることはできたと思います。

でもそれ以上に強く感じたのは、本当に会議の中核をなしている人たちのすさまじさです。議場での出来事の把握が前回より出来たからこそ気づくことができたのですが、彼らのネゴシエーション能力、各国との関係調整能力、その場で新たに文書を書き起こす文章能力、それらのどれをとっても才能と努力の両方が要求されるすばらしく高度なものでした。

特に僕はずっとともに DR 作成をしていたタジキスタン大使役の海陽生のリーダーシップに感服しました。彼は模擬国連経験が豊富ではあるようですが、ただ経験値が多いだけではない凄みがありました。彼の相方も、あの英語力を中3にして有しているというのは驚くべきことで、世間の広さと僕もまだまだであることを痛感しました。

中部地方は関東や関西に比べて模擬国連の知名度や浸透度が低く、今回が初めての練習会でした。やはり模擬国連のスキルを向上させるためには、校内や他校間での切磋琢磨が必要不可欠です。今回の練習会で繋がった輪を大切にして、今後の中部地方ネットワークを形成し、末永く続く関係性を築ければと思います。僕個人としても8月の大会を見据えて、世界情勢に気を配りつつ、模擬国連の知名度向上も目指して努力していきたいと思っています。



■ 今日は初めての参加で、準備もあまりできておらず、相手の国とあまり交流ができなかったのですが、それよりも問題解決を通して、移民のことについて学んだり、また、知らなかった知識も得ることができてとても楽しかったです。

今度は、自分たちがちゃんと勉強して、たくさん交流ができるようにしたいです。

■ 今回模擬国連に参加することが出来て、僕は幸せだなと思いました。それは岐阜県だけでなく愛知や新潟などの他県の人と知り合えたからです。

僕は模擬国連に参加する前は「自分に国連大使が務まるのかな？」と言う不安で一杯でした。しかし、模擬国連が終わるとき、「もう一回やりたい」という今まで感じたことのないような大きな欲求がありました。自分ただ1人でグローバルイシューについて考えることも大切ですが、他の高校、他県の人、また違う価値観を持っている人たちと意見を交換して、より良い意見を作り上げていくことの大使さを学びました。このことは将来役に立つと思います。

今回は勉強不足でした。これから時間を見つけて本を読み知識を高めます。そして立派な国連大使になります！